



Title	演習
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Issue Date	1956
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/77315
Type	manuscript
File Information	K007_0131.pdf



[Instructions for use](#)

15

NOTE BOOK

Most advanced quality

Gives best writing features

演習白

昭和三十一年度



日章ノート A I

才一回 五月廿九日

廣智の時を以て作す者授子針法也

才二回 五月十六日

布施君の発表。都^{日付}市に於ける

道子家族より夫婦家族への

移行の事実及びその異作的

原因の究明。才一回。

紙日相十時登る。三時の自家心
筆道名号より其の城下。思ふと大
不。が。指。号。城。下。大。谷。思。ひ。つ。ろ。り
河。下。の。調。整。を。し。て。居。る。
新。居。の。行。き。止。り。の。宗。及。い
新。居。の。行。き。止。り。の。宗。及。い
新。居。の。行。き。止。り。の。宗。及。い

力三回 五月二十五日
布施 兎 癸 表 力二回

才四回 五月三十日

戸田君発表

口民記号のわけ。高松記号。
同の文化的社会の交流の
ついで。アイスカンカン高調
い進し四時半近く即ち五時
子進くまでつく。答あはれ
高松記号発表。

和五回 六月九日

須田忠亮表

「家と教会」の足下

礼志か非キリスト教の礼志に
対し、婚すは、自らしさうなる。
キリスト教の聖人を指しは、おま
けさうなる。私がさうて、おま
けは、子しさうなる。キリスト教が
宗の壁の内に、下よは、国教に
あつた。おまけと家の内では
交つて、存続の可能地から、ま
た、以上の事、の、実地し。

第六回 六月二十日

現地演習——大学のバスを用いて

豊平川車橋より堤防を經て

サハライ母音溝視察あり。

富永助幸の説明。

その他より、琴ヶ谷の行方乃至

活地区による都市域決定の

調査に付き、大正院徳田氏の

説明

さらに中央青物市場に行き

青物集積散らつた、笹森

君の調査報告あり

中央青物市場は中止

移り似より手掘の方向の

海の見えざる高台をトラップして

四軒半吹崎校

才七回

三月二十七日

佐治君の思想内調査報告。

第八回 十月三日

今日は教員考査の模範試験の休講。
調査室に行かぬと、新聞。
息が荒しく、二丁位毎に停止。

才九 (四)

十月十日

定鉄沿線の市街地の洞壺報告

小林正人君発表 布施見福呈

和子園 十月十七日
和子園の学、園のつづきの発表

十月
初十日 二十四日

今日は現地演習として
赤米屋に共同龍取見の
予定ありしは、風雨烈しく
休講とす。この日大寺院ありし人
即ち二人は赤米屋の屋敷
に去るのみ、赤米屋にたつ。

第十一回 十月三十一日

(凡雨烈し)

今日は凡雨烈しかりしも演習
度施の予定なりしと云ふゆへ代
とししとある所の多々田見あり
くは^{HBC}就職試験受験のため大部
分のお見欠座のため休講ししとせ
いれしとの事にて休講としぬま
せり。

才十三回

十一月七日

（凡雨、自働車、多田足）

多田足より、のわ村足、の報告、

い、この日は、同報告、の、

山田足、報告。

カチ田田 十一月十四日

調布と室において笹木村迄の内地
旅行の報告(宇多・川崎の調査)
岩手縣の新市の調査
今のは特に岩手縣の新市の調
査の報告ありたり。

才十五回十一月二十一日

富川助平の平坂アイヌ
部落の社会学的調査
報告。スウェーデン
用。此調査は先づ人
協力せよとの事。

才十六回十一月二十八日
須田君の土佐清水市を中心
に新市の調査調査
の発表。